

第2回 気候変動にともなう防災・減災を考える会

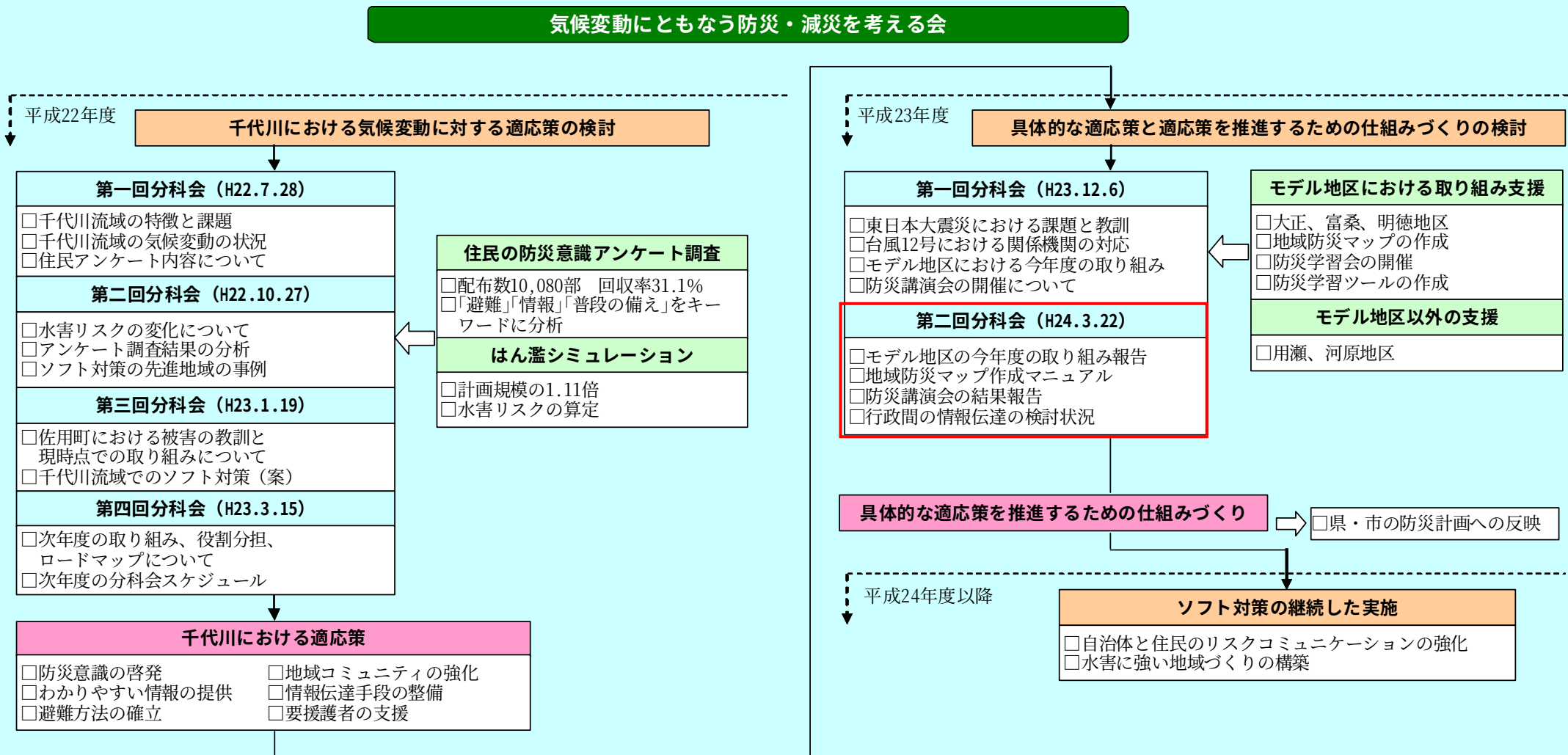
平成24年 3月 22日

千代川流域圏会議・分科会

目 次

1. 分科会の流れ	P 1
2. 前回会議の要旨	P 2
3. モデル地区の今年度の取り組み	P 4
4. 講演会の結果報告	P17
5. 行政間の情報伝達の検討状況	P19
6. ソフト対策を継続していくための仕組みづくりの検討状況	P21
7. 今後の取り組み	P23
8. 次年度のスケジュール	P26

1. 分科会の流れ



2. 前回会議の要旨

主な意見

(情報伝達について)

- ・台風12号の情報は、市役所等からは住民に伝わらなかったため、自分の目で確かめに行った。
- ・インターネットの情報は、一般住民に広報不足である。情報の「見える化」が必要である。
- ・デジタルテレビの「dボタン」の活用を検討して欲しい。

(防災意識の向上について)

- ・住民の意識向上を図るため、防災学習会等をPRして沢山の住民を集めることが必要である。
- ・防災訓練は毎年同じ人しか参加しないことが課題である。集落単位で全員参加の訓練を実施する必要がある。
- ・訓練に非常用持ち出し品を持ってくる人がいない。訓練日に中身を更新するなどの心構えが必要である。

(地域防災マップについて)

- ・(富桑地区) 本日ブック形式のものを提示しているが、一枚ものについても別途作成中である。
- ・(明德地区) マップは見やすいように文字を減らした。富桑地区のマップを見て更新の必要性を感じる。
- ・(大正地区) 地震については、子どもが危険箇所を調べて大人が避難経路を決めている。水害は、松見教授の避難シミュレーション結果を受けて、いつ、どこに避難するかを再検討したい。

2. 前回会議の要旨

地上デジタル放送への河川情報の提供について

- 地上デジタル放送の開始により、データ放送へ統一河川情報システムから、NHKに水位・雨量等の情報をリアルタイムで提供
- 平成24年度出水期からデータ放送で放映開始予定。
- 放送にのる観測所については、欠測等無いように、再度点検をお願いしたい。



※参考 放送を行っている地整 … 中部 (H21.9) 九州 (H22.7) 近畿 (H23.7) 関東 (H23末予定)

出典: NHK

3. モデル地区の今年度の取り組み

《取り組み方針》	《取り組み内容》
1.防災意識の啓発	■防災学習会(出前講座)の開催 ■防災講演会の実施 ■地域での防災訓練の実施 ■防災学習ツールの作成(子ども向け等) ■ソフト対策を継続して実施していくための仕組みづくり
2.地域コミュニティの強化	■地域防災マップの作成 ◆明德、富桑、大正地区以外への取り組みの拡大
3.わかりやすい情報の提供	◆災害発生時等における特別な情報(警報音・照明等)の検討
4.情報伝達手段の整備	◆国、県、市の提供する防災情報の市民への周知方法について
5.避難方法の確立	◆避難場所が不足している箇所に対しての検討
その他	◆内水氾濫(ゲリラ豪雨等)対策についての取り組みの検討

■青字:平成23年度に実施した取り組み

◆赤字:平成24年度以降に検討していく内容

3. モデル地区の今年度の取り組み

	富桑地区	明德地区	大正地区
1. 防災学習会	・市内で開催されている場合は、極力受講 ・地域全体のリーダー講習会を年1回実施 ・平成24年3月3日に地区全体のリーダー講習会を実施 ・小地域の学習会で洪水災害想定クロスロードゲームを採用(各地区で実施)	・秋の防災訓練後に参加者全員で防災学習会を実施 ・防災学習会後の学習会は継続 ・内容は「東日本大震災から学び、今後の対応について」 ・鳥取河川国道事務所に依頼し、役員の研修会を開催	・鳥取市防災指導員養成研修を受講(3名) ・総合防災訓練の際に防災講演会・学習会などのあわせた実施を希望 ・鳥取河川国道事務所に依頼し、防災学習会を開催
2. 地域での 防災訓練	・例年5月頃、地区合同訓練を実施 ・各町内単位では、必ず年1回以上実施。今後とも継続	・春は自警団主催の防災訓練、秋は自主防災会主催 ・平成23年から小学生全員が参加 ・参加者を増やすことが課題 ・小学生の保護者に対する事前説明が不十分	・毎年秋に総合防災訓練を実施(平成23年度は地震、水災害を対象) ・今後も継続して実施予定であるが、大正地区総合防災訓練を集落に出向いて実施することも考慮
3. 地域防災 マップの作成	・富桑まちづくり協議会の平成22年度主要事業として実施(鳥取大学、国土交通省の指導) ・平成24年3月に全戸へ配布		
4. その他	・防災士育成講座(H22:8名、H23:1名) ・防災士受験(H22:1名) ・毎年受講するように奨励	・防災マップは平成23年9月に完成。 ・全戸へ配布完了 ・災害時の避難器具の見直しと購入	・平成23年度、各集落のマップ(地震編)を作成し、各戸に配布 ・自主防災会長が保管するマップには、要援護者情報の記載を考慮 ・大正地区のほとんどが浸水することが予想されているため、被災時に対応できる避難場所の確保、避難方法等についての対策が課題

3. モデル地区の今年度の取り組み (分科会の支援)

1. 地域防災マップの作成支援

	実施日	対象	施策	内容
1	7月17,18,24日	富桑地区	地域防災マップ	・まち歩き
2	9月10日	富桑地区	地域防災マップ	・マップ素案の作成 ・クロスロードゲーム
3	12月3日	富桑地区	地域防災マップ	・マップの記載内容の確認
4	3月3日	富桑地区	地域防災マップ	・マップの見方について学習

2. 防災学習会の開催

	実施日	対象	施策	内容
1	10月18日	大正小学校 (5年生)	防災学習会	・ミニ講演【千代川の洪水に備えて】
2	10月29日	大正地区	防災学習会	・ミニ講演【水害に対する備えと自助・共助の重要性】 ・クロスロードゲーム
3	11月26日	明德地区	防災学習会	・ミニ講演【水害に対する備えと自助・共助の重要性】 ・クロスロードゲーム

3. モデル地区の今年度の取り組み (地域防災マップの作成支援)

作成手順	実施日	実施概要
研修会	3月4日	・マップ作成の目的・趣旨や作成手順の説明 ・鳥取大学・松見教授による洪水発生時における避難シミュレーションの説明
まち歩き	7月17,18,24日	・地域の危険箇所や防災に役立つ施設等を確認
マップ素案作成	9月10日	・まち歩きによるマップ素案、地盤高図、マップの活用方法、避難時の心得等の説明 ・クロスロードゲームの実施
マップ記載内容確認	12月3日	・マップの記載内容の確認
マップの完成	3月3日	・富桑地区防災マップ [水害編] の見方について学習

マップの仕様	・A4版ブック型 (北地区版、中地区版、南地区版) 10ページ ・マップ A1版片面
ブックの構成	・地盤高図 ・災害や避難に役立つ情報 ・洪水ハザードマップおよびハザードマップの情報 ・防災マップの活用 ・洪水時の避難 ・非常時の備え
工夫した点	・地盤高図には、一時避難場所、避難所を記載 ・災害や避難に役立つ情報には、AED、消火栓、消防ホース、防災倉庫、防災無線等の位置を記載 ・洪水時の避難には、自宅の浸水状況と建て方別による避難の方法を記載



まち歩き (7/24)



マップ記載内容確認 (12/3)

3. モデル地区の今年度の取り組み (地域防災マップの作成支援)



3. モデル地区の今年度の取り組み (地域防災マップの作成支援)



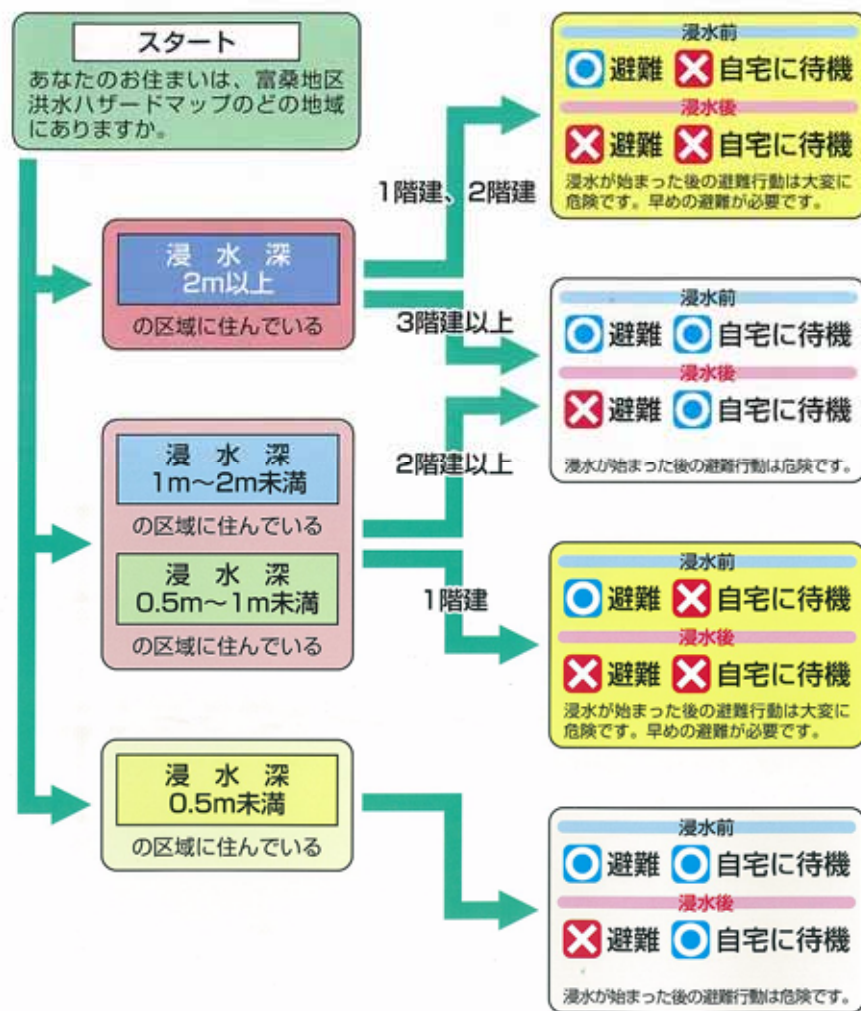
3. モデル地区の今年度の取り組み (地域防災マップの作成支援)



3. モデル地区の今年度の取り組み (地域防災マップの作成支援)

洪水・地震の時の避難

この図は、洪水の時の避難行動の参考にするために作成しました。
あなたの住まいに該当する項目を確認して下さい。



自宅に待機する場合には、非常備蓄品を必ず準備しておいて下さい。

家族それぞれ避難カードを作成し、カバンや財布に入れておきましょう

富桑地区自治会 避難カード		富桑地区自治会 避難カード	
住 所		住 所	
ふりがな氏 名		ふりがな氏 名	
避難所 在宅時		避難所 在宅時	
在宅外		在宅外	

富桑地区自治会 避難カード		富桑地区自治会 避難カード	
住 所		住 所	
ふりがな氏 名		ふりがな氏 名	
避難所 在宅時		避難所 在宅時	
在宅外		在宅外	

富桑地区自治会 避難カード		富桑地区自治会 避難カード	
住 所		住 所	
ふりがな氏 名		ふりがな氏 名	
避難所 在宅時		避難所 在宅時	
在宅外		在宅外	

富桑地区自治会 避難カード		富桑地区自治会 避難カード	
住 所		住 所	
ふりがな氏 名		ふりがな氏 名	
避難所 在宅時		避難所 在宅時	
在宅外		在宅外	

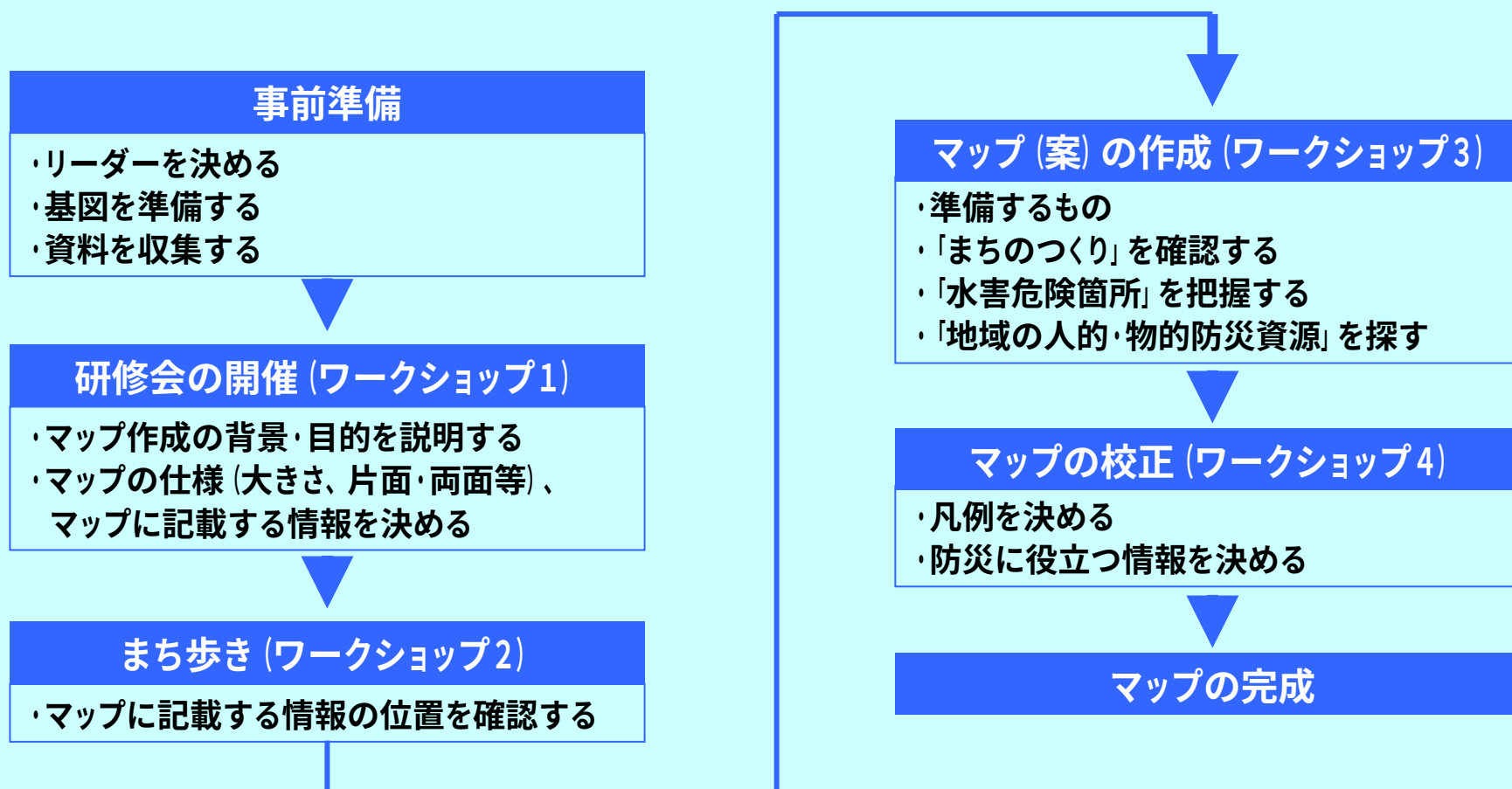
富桑地区自治会 避難カード		富桑地区自治会 避難カード	
住 所		住 所	
ふりがな氏 名		ふりがな氏 名	
避難所 在宅時		避難所 在宅時	
在宅外		在宅外	

富桑地区自治会 避難カード		富桑地区自治会 避難カード	
住 所		住 所	
ふりがな氏 名		ふりがな氏 名	
避難所 在宅時		避難所 在宅時	
在宅外		在宅外	

◎切り取って10枚のカードを作る事ができます。

3. モデル地区の今年度の取り組み (地域防災マップの作成支援)

災害時に住民が安全に避難行動を行うこと及び地域のコミュニティを強化するための地域防災マップの作成を支援するため、マップ作成マニュアル(案)を作成。



地域防災マップ作成マニュアル(案)の骨子

3. モデル地区の今年度の取り組み (防災学習会の開催)

大正地区、大正小学校、明德地区において防災学習会を開催

学習会プログラム

1. 千代川流域の特徴
2. 最近の水災害
3. 近年の気候変動
4. 佐用町の水災害からの教訓
5. 住民意識アンケート調査結果
6. 洪水被害を軽減するための備え
7. クロスロードゲーム



大正小学校防災学習会 (10月18日)



大正地区防災学習会 (10月29日)



明德地区防災学習会 (11月26日)

■参加者の声 (アンケート結果)

- ・防災意識を高めるには、**小・中・高等学校などの場できちっと教育することが必要である。**
- ・過去の災害から学ぶことが多いと思うので、地区での避難訓練を実施し、いろいろな経験を積む。
- ・訓練での反省点を次の訓練に生かし、マニュアルを充実していく。
- ・高齢者が多い地域でもあり、避難誘導など地域住民と協力することも必要だと思う。
- ・今回のような会への**参加者を増やすことが必要**である。

3. モデル地区の今年度の取り組み (防災学習会の開催)

学習会資料

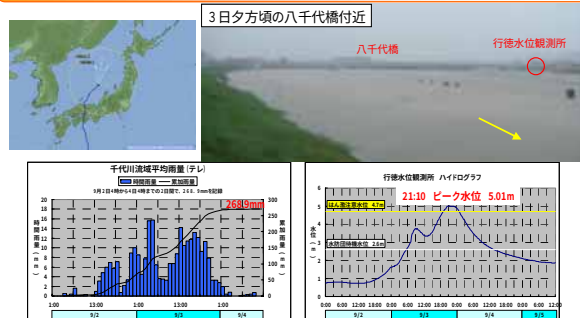
2011.10.29 明德地区 防災学習会

水害に対する備えと自助・共助の重要性

気候変動にともなう防災・減災を考える会

台風12号の概要

台風12号(9月2日~4日)はゆっくりとしたスピードで四国・中国を横断。雨は長時間降り続き、流域平均雨量は2日間(2日4時~4日4時)で、268.9mmを記録。
※概ね100年に一回程度発生する千代川流域の平均雨量は325mm/2日(12号は約80%)



もし、千代川の堤防が決壊したら...

千代川流域で100年に1回程度起こる豪雨が発生し、千代川の堤防が決壊した場合、大正小学校は決壊から3時間後に約2.3メートルの最大浸水深になると想定される。



鳥取市内の地盤高は千代川の水位より低い



千代大橋より上流側を撮影

ゲリラ豪雨

茨城県日立市：一時間雨量85ミリ(平成20年8月14日)



栃木県鹿沼市では平成20年8月16日のゲリラ豪雨により45歳の女性が自動車内で水死

佐用町の被害から得られた教訓

- 幕山地区の住民は、避難所(小学校)へ避難勧告発令以前に自主避難を開始したが夜間であり、ピーク水位付近の浸水水中での移動であったため、歩行が困難となり、普段見慣れているはずの小水路に転落した。
- 浸水深は70cm程度であり、団地の2階に避難していれば被災は免れた可能性がある。
- 浸水深が2mとなった久崎地区の住民は、平成16年の浸水被害の経験から2階に避難し、人的被害を免れた。

- ◆ 夜間の避難は危険であり、早めの自主避難が必要。
- ◆ 洪水の規模や浸水状況にもよるが、外に出て離れた避難所へ避難するより自宅の2階に避難する方が安全な場合がある。

千代川の過去の水害

昭和54年10月洪水



鳥取市東町(鳥取県庁前)

平成23年9月洪水(台風12号)



鳥取市用瀬地区(中橋)の増水状況

自然災害の巨大化

このまま温室効果ガス(CO2)が大量に排出され続けると、自然災害が巨大化する。



市民のできる災害対応

最低3日間は...

- ・自分の力で**生き残る**
- ・地域の共助で**生き延びる**

自助・共助が必要な理由

- ・公的救助の出動には時間がかかる
- ・公共施設や職員も被災者になる可能性大

3. モデル地区の今年度の取り組み (防災学習会の開催)

クロスロードゲーム

- 災害時には思いもよらぬ課題に遭遇し、その時どのような行動をとるかを瞬時に判断しなければならない場面が発生する。
- クロスロードゲームは、そのような場合に各個人がどのような考えをもって行動を行うかの意見を模索するツールである。
- 参加者は問題に対して「YES」または「NO」のカードを出し、なぜYES、なぜNOを出したかについて意見交換を行い、各個人の認識を共有することができる。

1 あなたは町会長です

テレビで大雨洪水警報の発表を知ったあなたは、川が危険かどうかを確認するため、川の様子を見に行きますか？

YES (見に行く)
or
NO (見に行かない)

61

2 あなたは自治会の役員です

あなたは、避難所が開設されることにより、小学校へ向かいます。途中で、乗用車が水に浸かって立ち往生し、運転していた幼稚園児連れの女性が助けを求めています。急いで小学校に行きたいところですが、この親子を助けますか？

YES (助ける)
or
NO (助けずに小学校に行く)

64

3 あなたは3歳の女の子を連れた主婦です

雨がひどく不安なため、近くの小学校に子どもを連れて避難することになりましたが、ご近所にいる寝たきりのお年寄りが気になります。あなたは、声をかけて一緒に避難しますか？

YES (一緒に避難する)
or
NO (一緒に避難しない)

66

4 あなたはペットを飼っている住民です

避難勧告の発令により、あなたは避難所に避難することになりました。
あなたは、避難所にペットをつれて行きますか？

YES (つれて行く)
or
NO (つれて行かない)

69

5 あなたは小学校に避難した住民です

小学校には、すでに500人を超える人が集っていますが、水や食糧をもっている人は、2割程度です。小学校に物資が届けられるのは明日の午後です。
あなたは、食糧を持っている人に、少し分けてもらうように頼みますか？

YES (分けてもらうように頼む)
or
NO (頼まない)

71



富桑地区では、小地域の学習会において住民同士で実施

3. モデル地区の今年度の取り組み (防災学習会の開催)

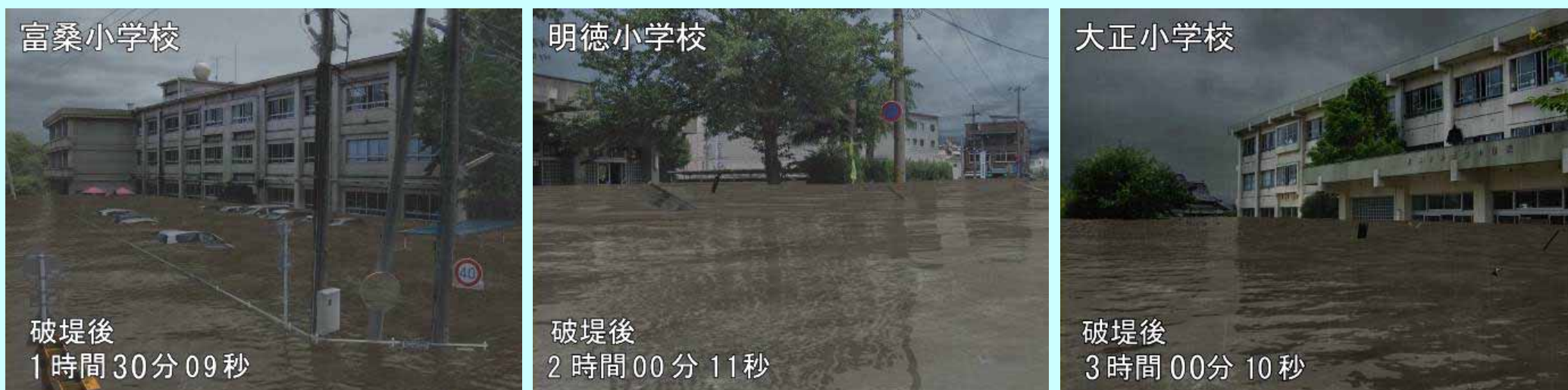
はん濫CG

はん濫シミュレーション結果をわかりやすく説明するため、はん濫CGを遠景 (鳥瞰) と近景 (人の目線) で作成

[遠景]



[近景]



防災講演会や学習会で上映したところ、データが欲しいとの声が多数

4. 講演会の結果報告

気候変動にともなう防災・減災に関する講演会

目 的

災害時の経験と知恵を学び、千代川の水災害に対する防災・減災のため、流域住民の防災意識の向上を図ること及びモデル地区における取り組みを流域全体へ拡大するための広報を目的として開催。

プログラム

【日 時】 平成24年2月18日(土) 午後2時～午後4時

【会 場】 鳥取県民ふれあい会館 ホール

【参加者】 一般住民、防災リーダー、消防団、大学関係者、行政職員等 約280名

【講演者】 群馬大学大学院・片田敏孝教授

【テーマ】 想定を超える災害にどう備えるか ～今求められる地域の防災力、個人の防災力～



片田敏孝教授

■避難3原則■

『想定にとらわれるな』 ハザードマップに示されている浸水想定区域は、あくまで防災施設を建設する際の“想定外力”。それ以上の災害が起こる可能性があると思え。

『最善を尽くせ』 「ここまで来ればもう大丈夫だろう」ではなく、そのときできる最善の対応行動をとれ。

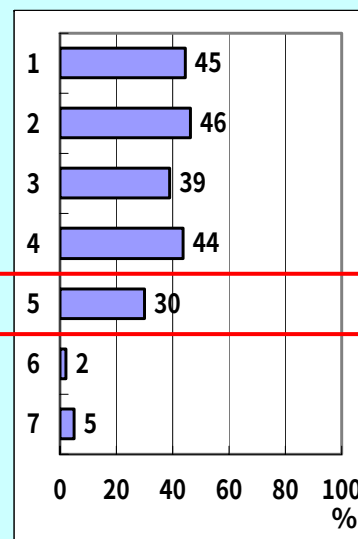
『率先避難者たれ』 いざというときには、まず自分が率先して避難すること。その姿を見て、他の人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことが可能となる。

当日は大雪の悪天候の中、防災リーダーをはじめとする約280名の聴講者が集まり、熱心に講演を聴講

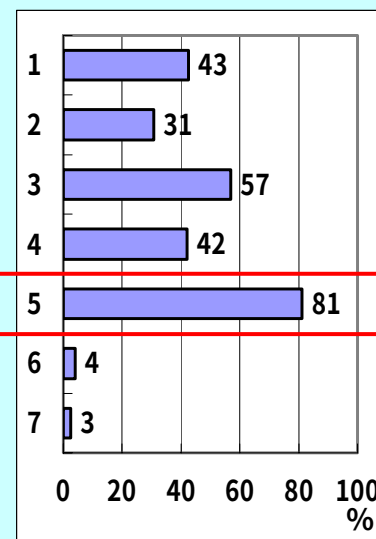
4. 講演会の結果報告 (アンケート結果)

洪水被害を軽減するための方策

- 1 堤防やダム、ポンプ場などの整備
- 2 森林の保全や宅地開発等の抑制
- 3 分りやすい防災情報の提供
- 4 早期の避難勧告の発令・避難体制の充実
- 5 住民の防災に関する知識の向上
- 6 その他
- 7 無回答



H22全体調査 (3,134人)



講演会参加者 (195人)

H22の流域住民に対する調査では「住民の防災意識に関する知識の向上」は30%であったが、今回の講演会の参加者では81%となっており、講演の内容が意識向上につながったものと考えられる。

参加者の主な意見

【防災教育】

- 子どもたちに継続的に教えることは文化を作るという考えが印象に残った
- 子どもは親の後ろ姿を見て育つ。率先して手本を示さなくてはと思った

【情報】

- 今回のような講演会を多く聞き、市民が防災に触れる機会を増やすこと。市報・新聞などで防災に関する記事を増やす
- 減災についてもっとテレビ、ラジオ、新聞等で発信し、各家庭でできることをしていく

【防災意識】

- 地域で昔のようにプライバシー保護というような垣根を取り除いた話し合いができるようにと心掛けている
- 自然の力に人間はかなわないことを知った上で、どの程度までの力に対して安全なものを作るか。それ以上の力が来たときは防災・減災で対応するという事をみんなの意識として持たせることが必要

5. 行政間の情報伝達の検討状況

主旨、目的

「犠牲者ゼロ」に向けたソフト対策を推進するため、防災機関（鳥取地方気象台、鳥取河川国道事務所、鳥取県及び鳥取市）の間の情報伝達の現状を確認し、効果的な情報伝達を実施していくための課題を解決していく。

今年度、2回の情報伝達勉強会を開催した。

第1回勉強会

- 【開催日】 平成24年1月26日
- 【参加者】 鳥取地方気象台、鳥取県、鳥取市、鳥取河川国道事務所、事務局含め11名
- 【議 題】
 - ・情報伝達の現状の確認（各機関の情報伝達に関する規定の情報共有）
 - ・これまでの出水時の課題
 - ・ソフト的な改善点の提案



第2回勉強会

- 【開催日】 平成24年2月29日
- 【参加者】 鳥取地方気象台、鳥取県、鳥取市、NHK鳥取放送局、日本海ケーブルネットワーク（NCN）、鳥取河川国道事務所、事務局含め12名
- 【議 題】
 - ・防災機関から報道機関に対して送っている情報の確認
 - ・水害が予想される時の報道機関の体制
 - ・防災機関からの情報に対する要望
 - ・改善点に向けた方策



5. 行政間の情報伝達の検討状況

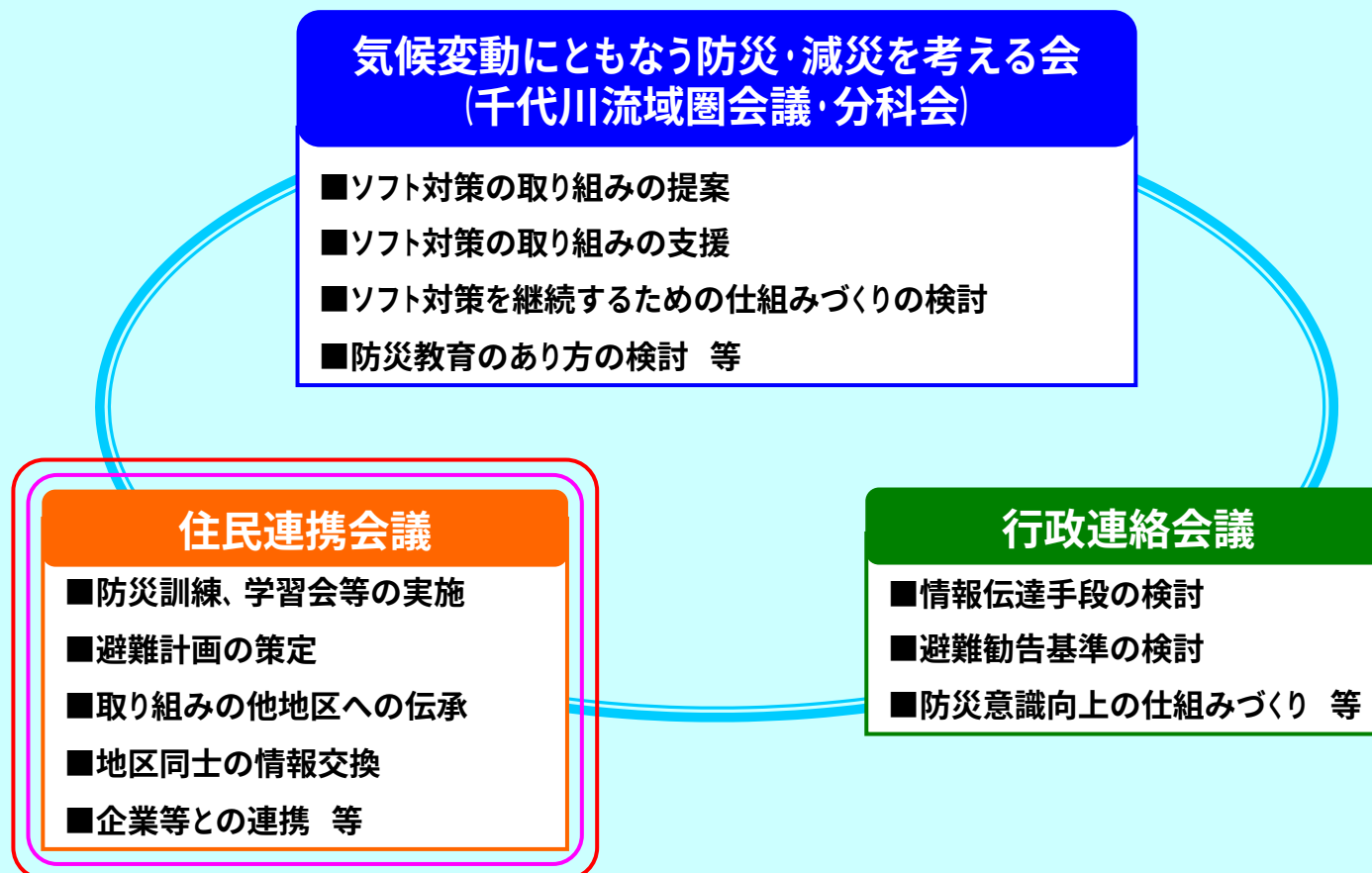
情報伝達勉強会であげられた課題と改善策

課 題			対応、改善策	
項 目	内 容	主 体	ソフト	ハード整備
情報伝達	避難勧告等を判断できるタイムリーな情報を得たい	鳥取市	従来のホットラインに加え現場ホットラインの活用(国、県)	—
	情報にタイムラグがあれば問題である	NHK	事前情報を提供する等の対応(国、県、気)	洪水予報の時間短縮(国、県、気)
	状況を瞬時に把握したい	NHK	予測水位をグラフ化(国、県) ※新洪水予警報システムで対応(H24運用開始予定) わかりやすい様式の作成(国、県)	—
	FAXが共有のものしかない	鳥取市	メール伝達の活用(国、市)	専用機の整備(市)
	データ放送のテロップの入力が国交省でできない	NCN	—	国交省とNCNで調整(国、NCN)
情報提供	市民への情報提供手段としてあらゆる手段を用いる	鳥取県 鳥取市	トリピーメールの登録推奨(県) エリアメールの整備(市)(済) FM放送、CATVへを介した直接伝達(市)(済)	防災無線等の整備(市)(済)
	夜間のライブカメラが見えにくい	国交省	—	一定水位以上でライトを当てるなどの対応(国)
情報共有	情報共有手段	国交省 鳥取県	リエゾン情報、県のHPで共有(国、県)(済)	NHKのデータ放送の活用(国、県)
	トリッターの活用	鳥取県	一般市民の情報なので、信頼性は低い	—
防災教育	教育委員会との調整	鳥取市	国、県が一体的に実施する組織作り	—
その他	避難勧告の判断・伝達マニュアルの作成	鳥取市	マニュアルの作成	—

6. ソフト対策を継続していくための仕組みづくりの検討状況

千代川流域のソフト対策を継続して実施していくため、住民連携会議および行政連絡会議を設立し、互いに連携しながらできることから実施していく。

会 議 名 称	主 体	備 考
気候変動にともなう防災・減災を考える会 (千代川流域圏会議・分科会)	鳥取大学、国土交通省、鳥取県、鳥取市、気象台、消防団、 日本赤十字社、郵便局、住民代表	既設 (年2～3回開催)
行政連絡会議	国土交通省、鳥取県、鳥取市、気象台	既設 (年2～3回開催)
住民連携会議	鳥取市、地域住民	随時開催



6. ソフト対策を継続していくための仕組みづくりの検討状況

今年度の取り組みの中で、今後取り組みを継続していくためのツールの作成、体制準備を行った。

取り組み方針	今年度検討した仕組みづくり	ソフト対策の継続のための着眼点
防災意識の啓発	■防災学習会資料を作成し、どの地区でも学習会開催の支援ができるように準備	●モデル地区以外での学習会開催の支援に活用できる。
	■クロスロードゲームを普及し、住民同士で防災について考えられる機会を提供	●住民同士でゲームを行うことで、防災意識の向上、地域コミュニティの強化を図ることができる。 (富桑地区では、今年度、小地域で開催)
	■防災講演会を開催し、多数の住民に防災意識を啓発	●住民から防災に関する講演会の開催や情報提供等の要請が期待できる。
地域コミュニティの強化	■地域防災マップ作成マニュアルを作成し、次年度以降の活用に準備	●住民の主導でマップを作成することができる。 ●マップ作成を進めることで、防災意識の向上、地域コミュニティの強化を図ることができる。
わかりやすい情報の提供	■はん濫CGを作成し、住んでいる地区がどの程度浸水するかをわかりやすく表示	●モデル地区の別のランドマークや他地区からの作成の要請が期待できる。
情報伝達手段の整備	■情報伝達勉強会を開催し、防災関係機関同士の課題・改善点を整理	●勉強会を継続することで、新たな技術、改善点等の情報交換が可能となる。
避難方法の確立	■まるごとまちごとハザードマップの整備を推奨	●他地区からの整備の要請が期待できる。

7. 今後の取り組み

今年度の取り組みで得られた課題、改善点を踏まえ、次年度以降も**継続・新規のソフト対策**を進めていく。

取り組み方針	今年度の取り組みから得られた課題・改善点	今後実施していく施策
防災意識の啓発	■防災意識が低い人への意識啓発が必要(会、学、講) ■注意報、警報の意味や避難勧告、指示の意味を住民に広報・周知することが必要(情) ■浸水深や家屋階層による最適避難方法の広報・周知が必要(マ、講)	●防災学習会の継続した実施
地域コミュニティの強化	■地域ぐるみで継続して取り組めるような仕組みづくりが必要(マ) ■ソフト対策に取り組む地区の拡大が必要(会)	●地域防災マップの作成支援 ●用瀬、河原地区への拡大
わかりやすい情報の提供	■情報の内容をわかりやすくすることが必要(情) ■ライブカメラ等の照明を点灯することで、住民への注意喚起が可能(情)	●図や表を使ったわかりやすい情報伝達様式の改善 ●警報音や照明等を用いた視聴覚的な情報の検討
情報伝達手段の整備	■トリピーメールの登録者を増やすことが必要(情) ■コンビニエンスストア等を情報のターミナルとして活用することが可能(会)	●トリピーメールの広報・周知 ●コンビニエンスストア等を情報発信基地として活用するための検討
避難方法の確立	■自分が避難する場所を住民に周知しておくことが必要(会)	●まるごとまちごとハザードマップの整備

会) 分科会 マ) 地域防災マップ作成 学) 防災学習会 講) 防災講演会 情) 情報伝達勉強会

7. 今後の取り組み

次年度は、以下のような具体の取り組みを実施していく。

《取り組み方針》	《取り組み内容》	《今後の取り組み》
1.防災意識の啓発	■防災学習会(出前講座)の開催	[継続]
	■防災講演会の実施	[継続]
	■地域での防災訓練の実施	[継続]
	■防災学習ツールの作成(子ども向け等)	[継続]
	■ソフト対策を継続して実施していくための仕組みづくり	[継続]
2.地域コミュニティの強化	■地域防災マップの作成	[継続]
	◆明德、富桑、大正地区以外への取り組みの拡大	●用瀬、河原地区への拡大
3.わかりやすい情報の提供	◆災害発生時等における特別な情報(警報音・照明等)の検討	●図や表を使ったわかりやすい様式の作成 ●ライブカメラに照明を点灯する等の検討
4.情報伝達手段の整備	◆国、県、市の提供する防災情報の市民への周知方法について	●トリピーメール等の広報・周知 ●コンビニエンスストア等を情報発信基地として活用するための検討
5.避難方法の確立	◆避難場所が不足している箇所に対しての検討	●各人が避難する場所を防災学習会、地域防災マップ作成を通じて広報 ●まるごとまちごとハザードマップの整備
その他	◆内水氾濫(ゲリラ豪雨等)対策についての取り組みの検討	●大路川流域治水対策協議会を通じて総合的な流域治水対策として検討

7. 今後の取り組み (まるごとまちごとハザードマップ)

■まるごとまちごとハザードマップ

「その地点がどのくらい浸水するのか」、「最寄の避難所までどのくらいはなれているか」などの洪水防災に関わる情報を生活空間であるまちの中に標識として表示する。

● 設置によって期待される効果 ●

- 紙のハザードマップと違い、その場所がどのくらい浸水するのか一目でわかる。
- まち全体がハザードマップとなって、いつでも確認できる。
- まちなかに設置することで、普段から防災や洪水に関する意識を持つことができる。
- そのまちに住んでいない人も、避難所や浸水深について確認することができる。

避難所を示す標識



想定浸水深

8. 次年度のスケジュール

平成24年度 気候変動にともなう防災・減災を考える会 ロードマップ（案）

機 関 \ 時 期		平成24年									平成25年				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
国、県、市、気象台		防災学習会の支援													
		わかりやすい情報 伝達内容の改善			地域防災マップ【水害編】の作成支援										
		特別な情報発信（警報音・照明等）の検討													
		総合的な流域対策の検討（大路川流域治水対策協議会）													
自主防災会	富桑地区			まるとまちごとハザードマップの整備											
	明德地区														
	大正地区														
その他の地区等	用瀬、河原地区等 コンビニ等	防災学習会の開催													
		コンビニエンスストア等の情報発信基地の検討													
気候変動にともなう防災・減災を考える会				★		取り組みの効果を 確認するための アンケート調査						★			

年間を通じて、関係機関等がソフト的な取り組みを行い、千代川流域住民の水災害に対する防災・減災意識の向上を図っていく。